

専門部会議事内容結果（要旨）

| | |
|------------|--|
| 専門部会名 | 第3回産業経済部会 |
| 開催日時 | 平成28年 2月 9日 13時 30分 ～ 15時 00分 |
| 開催会場 | 名寄市民文化センター 営農研修室 |
| 出席委員 | 扇谷部会長、東野副部会長、田中副部会長、上口委員、宮崎委員、清水池委員 今井委員 |
| 事務局 出席者 | 川田経済部長、水間営業戦略室長、今農業委員会事務局長、伊藤営業戦略課長、 佐々木営業戦略課主幹、企画課菊池主査 |
| 審議事項 | 第1次総合計画の実施状況及び次期計画に向けた課題について（検証） ・ 商業の振興 ・ 工業の振興 ・ 雇用の安定 ・ 観光の振興 |
| 発言内容 | <p>■委員 商工業は課題が多く、展望が見えにくい状況である。 卸売業・小売業の取扱額が減少しており、地域経済が縮小している。 施策の積み重ねで対応していく必要がある。</p> <p>■委員 補助事業の活用実績が少なく、市の周知不足ではないのか これから益々、産官金の連携・支援が必要になる。 客観的データとして、RESASの活用・分析をしてほしい。</p> <p>■委員 中心市街地がシャッター街になってきている。目線を変える必要がある。 行政もお金が無くなり、交通や除雪などのコストを考えるとコンパクトシティを目指さなければ、立ち行かなくなる。 名寄市には現在、医療・買物などは充実しているため、今、まち中で安心して暮らすための検討を行う必要がある。</p> <p>■委員 都市計画に絡んでくるが、施策として、小さなまちづくりをしないと持続可能なまちづくりができなくなる。第2次総合計画で思い切った計画策定を検討する必要がある。</p> |

■委員

人口減少、行政の財政問題を見据え、PPPなど公民連携が必要になる。安心して暮らすためには、総花的ではなく施策を寄せていく必要がある。

■委員

農作物は、付加価値を付けて市場に出していくために農商工連携が必要である。
農業を見ると、農家戸数は減少しているが、吸収、合併などをして何とか耕地面積は維持しているが、商業は吸収、合併は難しい。大手企業進出などにより郊外に人が出るようになった。

■委員

人なの流れをつくりだすため、風連地区は再開発できたが、名寄地区は「よろ一な」から「エンレイホール」まで一連の導線で開発行為を行ったが、中抜けになっている。

■委員

事業承継、後継者不足が深刻であり、後継者がいないと活気がなくなってしまう。

■委員

まち中を整備し、魅力あるまちづくりをすることで、市外から名寄市に来てくれる人がいると思う。

■委員

移住及び観光、地域活性化に繋がってくる。

■委員

新年度、市場は北海道の認可をとり公設市場となるのか？

○事務局

現在のところ難しいが、旭川以北、青果は名寄が流通を担ってきたことから、現状維持していきたい。

■委員

JA含めて流通機能を担っていく必要がある。

■委員

高校生（新規学卒者）は地元に残りたくても、仕事が無い場合がある。上川北部で1割程度が名寄市内で就職している。市立大学生は出身地か札幌市での就職が多いが、1年生から地域と関わる授業を取り入れることとなり、市内の就職にも好影響が出る可能性がある。

■委員

少子高齢化で高校生（新規学卒者）は数的に減ってくる。

名寄市には授業実績が全道トップである人材開発センターがあり、技能を身につけ地域で活躍していただくことを期待したい。

■委員

名寄市は待機児童がほぼいなく、女性が働きやすい環境であり、貴重な労働力が確保できる可能性は十分ある。

■委員

中国の春節でかなりの数が来日している。インバウンドはチャンスである。

■委員

天文台は観光施設にいけないのか？

■委員

学術施設であるが、来場者がいて交流人口が拡大することから観光施設ともとれる。

■委員

天文台と北国博物館でスタンプラリーなどはできないか？周遊ルートが欲しい。

■委員

中国などのインバウンドは、爆買から体験型観光にシフトされているので、名寄市も可能性が出てくる。

■委員

名寄市には他にない体験型観光の資源がある。冬の観光を推進していくべき。

○事務局

観光に使えるものは、なんでも活用している。

天文台も人によって学術、観光など捉え方が異なるため、観光でも押していく。

観光ルートは名寄市だけでは時間がもたないため広域で検討していきたい。

■委員

案内看板は多言語明記して欲しい。台湾国籍の職員が名寄市にいたので、日台親善協会と連携して、台湾インバウンド受入を行って欲しい。

■委員

シーニックバイウェイの登録に時間がかかるのか？

○事務局

平成29年の登録を目指す。天塩川をミュージアムに見立てて、中身のソフト事業の充実を図る。自然中心に歴史を絡めて検討していく。

○事務局

次回以降、現状と課題、施策の方向性、方針などを議論頂きたい。

決定事項等

今回で1次計画の検証作業を終了し、次回から、施策検討に入る。